

令和6年5月

阜

あ お ぞ ら

月

第399号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138

(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「子は親の鏡と言われるけれど・・・」

鹿屋市立花岡小・中学校 校長 川畑 勇司

今年も花岡学園を卒業した生徒が、それぞれの進路先に希望をもって進みました。将来の夢や自分の希望する進路を実現するために、いわゆる受験シーズンには必死に取り組んでいる姿を見ました。校長室で面接の練習をする際に、「将来、医者になりたいと思っています。」とか「将来は、漁師になるつもりです。」「私は化粧品の開発をしたいから工業系の進路を考えているのです。」などと、はっきりと応える生徒をとっても頼もしく感じました。中には、将来の夢はまだ決まっていなけれど、高校に進学してこんなことに頑張る力を付けたいとの思いを語る生徒もいました。ほとんど全員の生徒が自分の人生設計について、しっかりとした考えをもっていることをうれしく思いつつ、我が子の受験シーズンを親として経験したときのこと思い出され、ついつい苦笑いが出てしまいました。

長男は小学校卒業の時、将来の夢を「剣道世界一になる」と元気よく発表しました。中学校の3年間も部活動に誠心誠意打ち込んだことは確かです。中学3年になり、11月末の三者面談を前に家族会議を開きました。長男は、剣道を継続したいとの思いに加え、大学に進学し研究者になりたいと言いました。そのとき、なぜか私は「受験生が今以上に頑張るのだから、受験生の健康管理は俺がする。」と自信満々に「毎日の朝ご飯を卒業まで作る。」と約束してしまったのです。毎日となると、さすがにつらく、何度もくじけそうになりました。これが、苦笑いが出てしまう理由です。我が家では、子育て時代に「ご飯を正座して食べる」、「門限は5時」、「10時までに寝る」の三原則を決めていました。特別な事情がない限り三原則だけは、絶対に守ることにしていたのです。あるとき長女が門限を破り、平気な顔で帰宅したことがあり、近くにいた犬が怯えるくらいの勢いで叱ったこと

もあります。たしか中学2年の時です。私は、今になって、こんな親でよかったのか、子どものためになってきたのだろうかと思わずに思えることもあります。

親の役割を果たすとは、子どもの前でどのような親であればいいのでしょうか。子どもの性格は、生活環境に大きく影響すると言われる。子どもは、大人が考えている以上に自分の親をしっかりと見ています。だから、親が気付かれていないと思ってやってしまった言動も、親自身が気付かないうちに何気なくやった言動も子どもに影響を与えていることとなります。例えば、よく言われるのが「親の気分で機嫌がコロコロ変わると子どもは顔色をうかがうようになる」とか「誰かと比較すると劣等感が強くなる」、「過保護な行為は自己中心的な性格を育てる」、「親が批判的な言動ばかりだと、子どもは悪口や陰口が多くなる」といったことでしょうか。

つまりは、「子は親の鏡」とよく言われますがそのとおりなのだと思います。子どもの健やかな成長のためには、私たち大人が恥ずかしくない行動をしているかがカギになるのです。だから、私たちも、「挨拶を率先しているか」、「きちんと横断歩道を渡っているか」、「子どもとの約束を守っているか」、「正しい言葉遣いをしているか」など、恥ずかしくない大人として、子どものお手本となるような行動を心掛けたいものです。

前述したように、私はこんな親でよかったのかと思うときもありますが、将来子どもたちの人生において、我が家の三原則が生きてくれると信じています。そして、認知症で寝たきりとなった母親を見て、子を思う親の心は伝わっているはずだと強く思うのです。